

月刊 男の隠れ家 別冊 VOL.2

男の隠れ家1月号別冊 2003年1月15日発行

男の隠れ家

2003 Jan

Comfortable life

Part.1
夢の空間に暮らす

Part.2
やすらぎの書斎

Part.3
こだわりのキッチン

Part.4
ガレージのある家

Part.5
ペットと暮らす家

Part.6
趣味をきわめた住まい

定価 1200円



木格子と可動吸音バネで音場コントロールを行う。バスレフの位置はネット・フロント・トライである。



その部分に吸音材や竹はさまるCDケース。5.1チャンネル対応のシステムスピーカーとマーカー

すべては究極のスピーカー“ノーチラス”を鳴らすために。
考えられる限りの工夫を凝らした純和風オーディオルーム。

不思議なほどの“静けさ”に包まれた和の空間で。
この部屋の主“ノーチラス”がマーカーのシンフォニーを奏で始める。
音楽に耽溺する……。そんな言葉が似合いそうなオーディオルームだ。

文●甲田隆次 図●松岡真樹

写真に写っている、この奇妙な形のスピーカーをどこに置くだろうか。オーディオマニアの間では究極のスピーカーとして知られる、英国JBL社製の「ノーチラス」である。各ユニットの背後にチューブを取り付け、壁をしっかりと下まで揺らかしているのが特徴。チューブには、パワーアンプがある必要となる。つまり、よほどのオーディオ好きでないとおいそれとは下手を組めない超高級モデルなのだ。

埼玉県内にあるお寺の住職・さきさんは、昨年5月に南禅(寺)のなかで住職の家が住む場所を指定された。そのなかで、住職を離れた安全なプライベートルームとして約10坪のオーディオルームを造った。

「部屋の構成要件は、音を決めたノーチラスの前方を最大限開放できるような空間を確保すること、全体のしつらえを和風にするということだ。」

こう語るさきさんは、建築・音響・AV設備などの知識を駆使して、オーディオ・マーカー・エイ・デザイン・機材を7車庫所の山本明史さんに設計を依頼した。しかし、経験豊富な山本さんも、



趣味をきわめた住まい

Chapter 1

“ノーチラス”を堪能する

S邸●埼玉県

どこどこにもダンボールが積まれた和イタリスが主人がアラン・ヤルドを製作スピーのコレクション。音楽の静けさの美しい純和風オーディオルームの理想形ではないが